

# 論文審査の結果の要旨

氏名 渡部 陽介

本論文は全5章から構成される。

第1章では、社会背景の整理および既往研究のレビューがなされ、農村地域の重要課題である地域アイデンティティの形成には、土地固有の農村景観との関わりが重要であるとの論点が示されている。そして、論文の目的として地域アイデンティティとしての農村景観の認識構造を解明することが掲げられている。また、目的の達成に向けて、「①地域アイデンティティとして認識される農村景観の解明」、「②地域アイデンティティとして認識される農村景観と経験の関係性の解明」、「③地域アイデンティティとしての農村景観の認識に影響を与える個人属性の解明」、の3つの研究課題が提示されている。

第2章「地域アイデンティティとして認識される農村景観の解明」は、本論文の第1の研究課題に対応している。本章では、農村地域の居住者を対象とした集団インタビュー調査およびテキストマイニングの手法が用いられ、土地固有の農村景観が地域アイデンティティとして認識されることが明らかにされている。

第3章「地域アイデンティティとして認識される農村景観と経験の関係性の解明」は、本論文の第2の研究課題に対応している。本章では、第2章で取得した語り合いのデータを対象に、出現した景観と経験の関係がテキストマイニングの手法で分析され、土地固有の農村景観との生業と遊びの経験を通じた関わりが、地域アイデンティティの認識に不可欠であることが明らかにされている。

第4章「地域アイデンティティとしての農村景観の認識に影響を与える個人属性の解明」は、本論文の第3の研究課題に対応している。本章では、写真を用いた景観評価調査にもとづき、地域アイデンティティとしての農地景観の評価と年齢・職業・居住歴・生育環境といった個人属性との関連が議論されている。考察では、特に居住歴が着目されており、生まれ育った地域からの他出が契機となり、地域アイデンティティとしての農村景観の認識が高まることが指摘されている。

第5章「結論」では、前章までの議論が結論としてまとめられている。加えて、哲学や地理学、環境倫理学、風土論といった人文社会科学分野の知見が参照されながら、本研究の意義や今後の景観施策への展望について考察が行われている。具体には、地域アイデンティティの形成に向けては、土地固有の農村景観との生業・遊びを通じた関わりを一体的に保全していくことの重要性が論じられている。

論文審査においては、景観という用語の意味や国内外の景観論の系譜における本研究の位置づけを明確にすること、景観認識の普遍性・地域性の観点から研究の構成を再検

討すること、対象地域の自然・社会特性および人文社会科学分野の知見を踏まえ第2章・第3章の考察を補強すること、等の指摘がなされた。とくに、研究の構成については、個人属性に着目して議論を展開している第4章の位置付けを景観認識の普遍性・地域性と関連付けて再検討することが必要との指摘がなされた。加えて、論文の内容を理解するために必要な基礎情報がやや不足しているとされ、とくに、対象地域の地図・現地写真および分析のデータ・手続きについて情報を加える必要があるとの指摘がなされた。

しかし、これまでの普遍性を重視する景観研究では、景観と居住者の関わりが視覚に限定して捉えられ、景観認識の地域性が主題とされてこなかったのに対し、地域アイデンティティの観点から、生業や遊びといった景観と居住者の多様な関わりを重視し、特定の地域でのみ共有される景観認識が論じられていることは高く評価され、学位に十分に値する成果との結論に至った。

なお、本論文の第2章から第4章にかけては、横張 真、落合基継との共同研究の成果を含むものであるが、いずれの章の議論も、論文提出者が主体となって分析及び検証を行ったもので、論文提出者の寄与が十分であると判断する。

従って、博士（環境学）の学位を授与できると認める。